

## 心豊かでつながりを大切にしたサービスを

居宅介護事業所  
管理者 黒岩 剛史

今年度、「居宅介護事業所 大阪市手をつなぐ育成会」の管理者を拝命し、着任から3年目になりました黒岩剛史と申します。よろしくお願ひ致します。

平成27年5月に西区から港区に移転し、早や2年を迎え、事業所も落ちついてきました。また、今年の2月より新しく行動支援の事業も始めております。今後とも、さまざまな利用者の方々への対応を可能に出来るよう、サービスの質の向上を目指し、豊かなアイデアを事業所の内外から引き出すことができたらと考えております。そのためにも、事業所の中に留まらず、現場に行き利用者の方々を直接聞くことを重点的取り組みとし、地域や他機関、同業の事業所との情報交換も積極的に行っていきます。

最近では福祉介護職の人材不足が言われておりますが、当事業所におきましても、求人募集の仕方の工夫や、口コミ、ヘルパーの集まる場所に求人活動していくなど様々な工夫を凝らしたいと考えています。また、現在従事しているヘルパーさんが貴重な存在であるため、一人一人の個性を汲み取りつつ、支援の質の向上を目指し、大きな力となるよう研修等の取り組みを行ってまいりたいと思ひます。

当法人でも新しく、「ツナガルー」というキャラクターが出来ました。今年度はこれまでの「心豊か」にプラスして「つながる」を意識したサービスを心がけます。人と人のつながり方は、今はLINE(ライン)やFacebook(フェイスブック)といったインターネットを利用した昔にはなかった新しいつながり方が出てきています。顔の見えないつながりですが、いざ、やってみると、顔が見えないからこそ、表情や空気感が見えない相手への心配りを慎重にして、言葉を選んで伝えないといけなことがわかりました。一方で、会話が難しい利用者の方とも言葉によるコミュニケーション方法が無くても「つながった」という瞬間を感じる場合があります。おそらく、一緒の気持ちになっているかな、と思われる瞬間です。そのような、「つながった」という瞬間や相手への気遣い、心配り



のあるつながりを大切に、利用者の皆さまに信託していただける事業所を目指していきたく思ひます。今後とも、皆さまからのご助言、ご指導のほど、よろしくお願ひ致します。

## 初心に戻って

大阪市西部地域障がい者就業・生活支援センター  
管理者 藤原 勇治

今年度より、大阪市西部地域障がい者就業・生活支援センター所長の辞命を拝命し、8年ぶりに港区で仕事をさせていただくことになりました藤原勇治です。今年度も与えられた役割を精一杯全うする覚悟でおります。皆様、親の会活動、法人及び施設運営に、これまで同様引き続きのご支援よろしくお願ひ致します。



さて、久しぶりに港区・弁天町へ戻ってきて、古くからお付き合いのあるご利用者や、保護者の方とお会いして、とても懐かしく感じる半面、長い時間の経過を感じさせられています。当然のことながら、自分のこともそうですが、みんな年齢を重ねているなあ、年を取ったなあということです。ご利用者やご家族、会員の皆様にとって、それぞれの暮らしや必要な支援の中身がだんだんと変わってきていることを実感しておりますが、その変化に対して、私が3月まで籍を置かせていただいた福島区で仕事をしていた間に、身につけることのできた、様々な知識やスキル、経験などを活用して、就労支援の領域だけにとどまらず、皆さまのお役にたてるよう頑張りたく思ひます。

大阪市育成会がこの港区で施設運営を開始したのが、平成元年の4月です。港育成園が定員50名の知的障害者通所更生施設として事業を開始し、平成4年には港第二育成園、平成9年には大阪市育成会地域生活支援センターとワークスいけじまが開所します。その後、通勤寮の利用を終了した人たちの、地域での自立生活を支援するために、多くのグループホームが開設されます。併せて、单身生活の方も含めて、多くの方の地域生活が港区で送られるようになり、その支援を大阪市育成会で担当するようになります。平成14年5月には、港育成園の分室として「ほっとスペースぽると」が開設されます。「ぽると」では、大阪市障害児・者療育等支援事業、大阪市生活支援事業、グル